

CROI 2017 参加報告書

国立病院機構大阪医療センターHIV 感染制御研究室

渡 邊 大

エイズ予防財団の派遣事業により、2017年2月13日から16日に米国ワシントン州シアトルで開催された CROI に参加しました。会場はシアトル市街の中心部にあるワシントン州立コンベンションセンターで、滞在したホテルから徒歩で数分のところでした。シアトルにはスターバックス 1 号店ほか、スターバックスの店舗が多数あり、カンファレンスの合間に息抜きのコーヒーも楽しみました。

当院の薬剤師である矢倉裕輝がサブミットした抄録がアクセプトされたため、共同演者として CROI に参加し、ドルテグラビル (DTG) の血中濃度と中枢神経系の副作用との関連性について報告しました。2月15日のポスター発表では多数の参加者と質疑応答を行い、あらためて DTG の注目の高さを実感しました。DTG についての他の発表としては、リルピピリンとの組み合わせ (DTG+RPV)、ラミブジンとの組み合わせ (DTG+3TC)、そして DTG の単剤療法についての報告がありました。DTG の単剤療法はインテグラーゼの耐性変異獲得の危険性があるとの報告がなされ、少なくとも現時点では選択することが難しい治療と思われました。一方で、DTG+RPV 療法と DTG+3TC 療法の二剤療法は今後の臨床での使用が期待できる結果が報告されていました。近年の抗 HIV 療法はすでに"Simple ART" といっても過言ではありませんが、上記 2 つの二剤療法を含めた、より新しい"Simple ART 2.0"の概念については Arribas JR 先生の"Simple ART: More Complex Than Thought"のレビューが非常に参考になりました。過去の多数の臨床試験の結果を評価するとともに、今後の診療においても活かせる内容のレビューでした。

ドルテグラビル以外で印象に残った発表は、テノホビルアラフェナミド関連 (E/C/F/TAF と E/C/F/TDF を比較した第Ⅲ相臨床試験の 144 週の報告、ドライスポットといった血漿以外のテノホビル濃度の検討) やダルナビル・コビスタット関連 (ダビガトランやドルテグラビルの薬物相互作用・ダルナビルの血中濃度) といった 2017 年に日本でも使用が可能となった薬剤に関する報告、開発途中の新薬 (薬物動態学的ブースター不要のプロテアーゼ阻害剤、新規機序によるインテグラーゼ阻害剤、カプシド阻害剤など) に関するものでした。抗 HIV 療法については今後も新しい薬剤や考え方が登場することが予想され、常に最新の情報を入手しておく必要性を痛感しました。

今回、初めて CROI に参加し、上記以外についても多くの情報を学びました。それらを診療および研究に活かしていきたいと思えます。